

## #編集後記 さあ希望の話をしよう



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com



日本時間の7月13日、MLBのオールスターゲームに先立ち、ホームランダービーが開催され、ご承知のとおり大谷翔平選手が  
出場しました。いつもにもまして楽しんでいる大谷選手が印象的でした。(^^)/

カッコいいー！

大谷選手が、松井秀喜さん（当時ヤンキース）が記録した日本人シーズン最多本塁打数に並んだ時の言葉。

「小さいころから憧れていた選手に並べたというのは、すごいうれしいことだなと思います。」

同じ方向を見る者にとって「憧れ」は「希望」です。その「希望」こそ、成長の原動力になります。

「憧れ」といえば、アスリートにとってオリンピックはその最たるものかもしれません。

東京オリンピックは、コロナ禍という異例な事態での開催となり、今もって開催反対のデモもあるようです。

何とか無事にオリンピックを終えてほしいと願う一方、多くのアスリートの皆さんにとって子どもの頃からの憧れであったであろうオリンピックでの活躍が楽しみでなりません。

大ケガや大病を乗り越え

オリンピックまで辿り着いた選手がいます。子育てをしながら家族みんな「夢」を共有して

オリンピックに挑むママさん選手もいます。

夢と希望の舞台です！



例え金メダルでなくとも、オリンピックの大舞台に立つだけでもアスリートにとっては夢の実現。

そんな**挑戦のプロセスと努力が報われる瞬間**を、ぜひ子どもたちにも見てほしいと思っています。

フランスの詩人ルイ・アラゴンの「**ストラスブール大学の歌**」という有名な詩の一節に「**教えるとは希望を**

**語ること**」とあります。第二次世界大戦中のフランス。戦火とナチスからの弾圧を避けて、疎開していたス

トラスブール大学の数百名の教授と学生がナチスに銃殺、逮捕されました。「ストラスブール大学の歌」はこ

の悲劇をルイ・アラゴンが書いた詩です。それから時は巡り、今また「新型コロナ」という不安を抱える時

代だからこそ、次の世代に「希望を語ること」が大切になるのではないのでしょうか。そして、オリンピック

には子どもたちに語りたくなる「希望」の物語が、いくつも散りばめられていると僕は思うのです。

子どもの将来を期待して語られる「**末は博士か大臣か**」なんて夢と希望に満ちた言葉があります。

昔は「夢は総理大臣！」なんて言う子どもがいたように思うのですが、今はどうなのでしょう。



政治家はワイドショーで批判され、ネットで叩かれ、今は子どもたちが憧れるような職業ではないのかも

しれません。まず政治家自身に責任があるのですが、功績よりもミスや醜聞を取り上げて

みんなでこぞって貶めるような風潮は、どこか「いじめ」にも似た気がして僕は好きでは

ありません。政治家という職業に憧れが持てなくなれば、そのうち政治家を目指す人は、

二世・三世議員や変人！（笑）ばかりになってしまうような気もしています。(;>\_<)



またまた  
失言ですね

「博士」についても、日本では子どもの理科離れが深刻化していると聞きます。資源の少ない日本の拠り所

は科学立国だったはず。今回のワクチン不足をはじめとする混乱は政治の問題もありますが、科学の分野で

も日本は外国頼みの部分が大きく、世界的に遅れをとっていることの証明なのではないかと感じています。

「博士」も「大臣」も国の運命を左右する重要な存在。「末は博士か大臣か」を死語にしたいくはありません。

知り合いの保育士が、勤務する保育園を卒園して大学生になった子が、その保育園でインターンとして

働くことになったと話してくれました。もしその子にとって保育士が憧れの職業なら、その子や

その子の保護者は、昔接してくれた保育園の先生に良い印象を持ってきていたのかも

しれません。それに考えてみると、子どもの健全な成長を願う保育園という職場には、

携わりたくなるような「希望」があふれているように思います。

皆さんの職場でも、将来はこうありたいという「希望」を語りあってはいかがでしょう。

「希望」の先には、きっと会社の大切な「未来」がありますからね。(^^)-☆

令和3年8月号（7月20日執筆）

じゃ、せんせいは  
広瀬すずになるわ！



ほく  
大谷選手  
になる！

せんせいより  
だいが  
年下だよー

おませな  
ユキちゃん

アヴェニール労務事務所  
未来は変えられる！ **avenir**